

セーブ・ザ・チルドレン 「2024年子どもの食 応援ボックス」申込者アンケート結果

2024年 子どもの食 応援ボックス 申込者アンケート結果



(イメージ)

2024年7月
公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<「2024年子どもの食 応援ボックス」実施概要>

| | |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【実施期間】 | ・申込受付:2024年6月3日～6月19日 ・発送:夏休み分については7月中旬から、冬休み分については12月上旬から順次発送 |
| 【配布予定世帯数】 | 夏休み:5,000世帯、冬休み:5,000世帯の計10,000世帯を予定 ※期間中に申し込みがあった8,425世帯のうち、書類などで申込条件を満たしている世帯の中で抽選を実施し、夏休み分、冬休み分の両方を発送する世帯と、いずれかのみ発送する世帯がある。 |
| 【申込条件】 | 1. 日本国内に居住している 2. 住民税所得割非課税世帯またはそれに準ずる 3. 0歳～18歳未満の子どもがいる ※18歳以上で高校に在籍している子どもがいる世帯は対象になる場合あり |
| 【配布内容】 | ・食料品セット(米などの主食、副菜、飲料、お菓子など) ・文具など ・各種情報提供(子どもの就学費用を支援する各種公的制度のご紹介など) |
| 【実施目的】 | 長期休暇中に食事の回数や内容が制約されがちな、経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちの食の状況を改善するため |
| 【申込世帯数】 | 8,425世帯 ※2022年夏休みは5,644世帯、2022年冬休みは5,754世帯、2023年夏休みは6,412世帯、2023年冬休みは6,743世帯 |

<「2024年子どもの食 応援ボックス」申込者アンケート実施概要>

| | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------|
| 【調査対象】 | 「2024年子どもの食 応援ボックス」に申し込んだ8,425世帯 |
| 【調査方法】 | 申込時にオンラインフォームへの回答 |
| 【実施期間】 | 2024年6月3日～6月19日 ※「2024年子どもの食 応援ボックス」申込時に回答 |
| 【有効回答数】 | 8,425世帯(人) |
| 【調査目的】 | 経済的に困難な状況にある子どもや子育て世帯の現在の生活状況や必要とする支援を把握し、子どもの貧困対策の推進に向けた政策提言活動などにいかすため |

<アンケート結果から明らかになったこと>

1. 【約9割の世帯が食費の値上がりにより十分な食料を買えない】

「2024年子どもの食 応援ボックス」の申込理由として、**89.4%の世帯が「物価上昇による食費の値上がりにより、十分な食料を買うお金がない」と回答しており**、前回2023年冬の調査時※より約4ポイント上昇している。また、4人に1人が「経済的な理由で、子どもの食事量を減らしている」と回答した(グラフ9)。

2. 【半数近くの世帯で子どもが長期休暇中に十分な量の昼食をとれていない】

長期休暇中などの給食がない期間の昼食を「あまりとれていない」「とれていない」と回答した世帯は45.7%であった。一方、学校がある期間の子どもの昼食については、「あまりとれていない」「とれていない」と回答した世帯は7.2%であり、長期休暇中と学校がある時とでは6倍以上の差が生じている(グラフ10)。

3. 【子どもが普段十分な食事をとれていない世帯のうち、8割近くが食料不足による子どもの健康状態を懸念】

子どもが普段十分な量の食事を「あまりとれていない」「とれていない」と回答した世帯のうち、**75.8%が子どもの健康状態への影響について「とても感じる」「やや感じる」と回答した**(グラフ11)。具体的な影響として、「体調を崩しやすい」との回答が59.0%と最も多かった(グラフ12)。

4. 【約6割の世帯で食料品や生活必需品への消費税率の引き下げを希望】

子どもの食について求める支援を尋ねたところ、**61.6%が「食料品や生活必需品への消費税率の引き下げ」と回答した**。次いで59.6%が「定期的な食料品の送付やフードバンクや子ども食堂など、家の近くでの食料支援」と回答、58.9%が「長期休暇期間中の昼食費の補助」と回答した(グラフ16)。

5. 【6割以上の世帯で低所得子育て世帯への現金給付や、教育の無償化を希望】

子育てをしていくうえで必要な支援について尋ねたところ、**64.5%が「経済的に困難な子育て世帯への現金給付」、64.2%が「制服代や教材費など小中高校生活にかかる費用をすべて無料にすること」と回答した**(グラフ19)。

※2023年冬に実施した「冬休み 子どもの食 応援ボックス」申込者アンケートでは、選択肢は異なるものの「物価上昇による食費の値上がりにより、十分な食料を買うお金がない」という回答は85.6%であった(p.7参照)。
<https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/report-foodboxwinter2023.pdf>

1. 申込世帯の状況(必須回答)

申込フォームに回答した保護者の性別

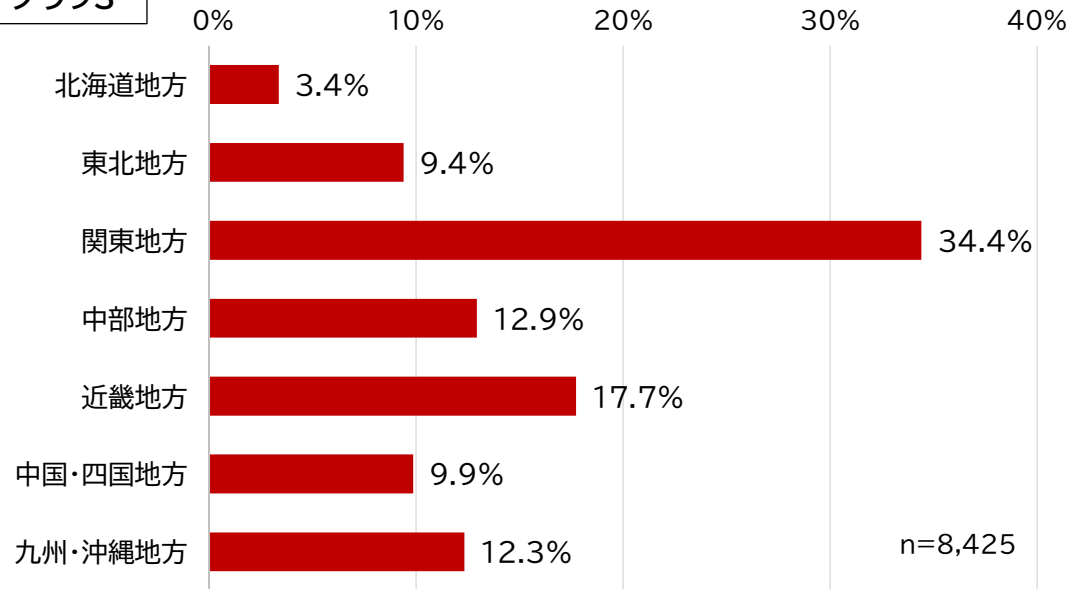
女性:97.5%、男性:2.2%、回答しない:0.3%

申込フォームに回答した保護者の年代

10代:0.1%、20代:3.7%、30代:32.3%、40代:48.9%、50代以上:15.0%

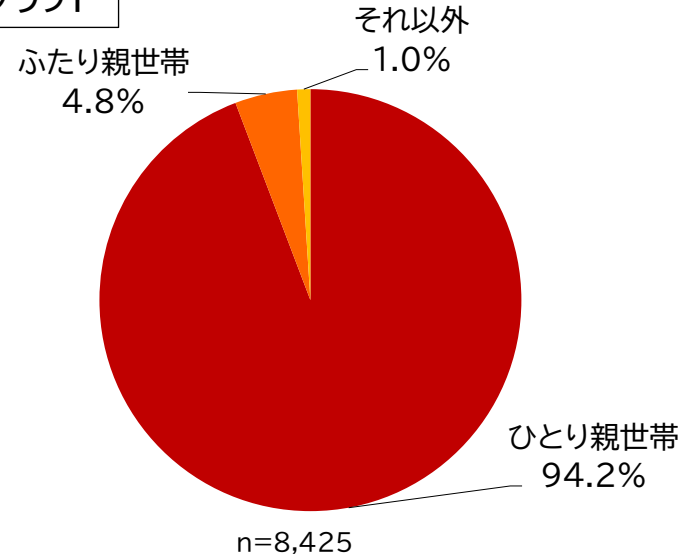
居住地域

グラフ3



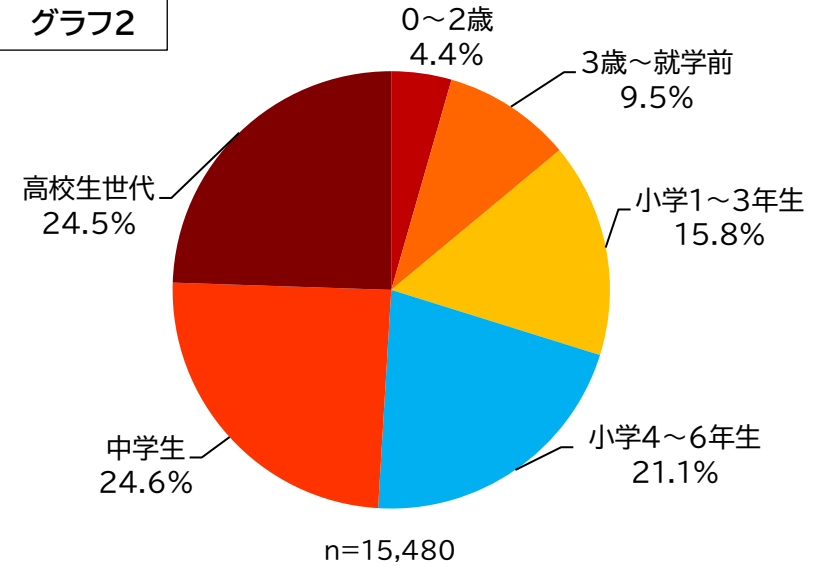
世帯状況

グラフ1



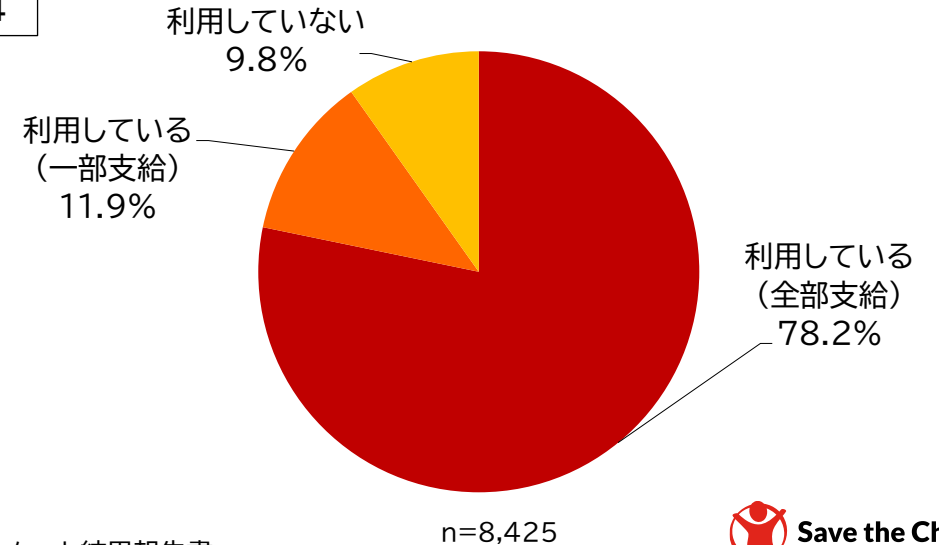
申込世帯の子どもの年代別割合

グラフ2



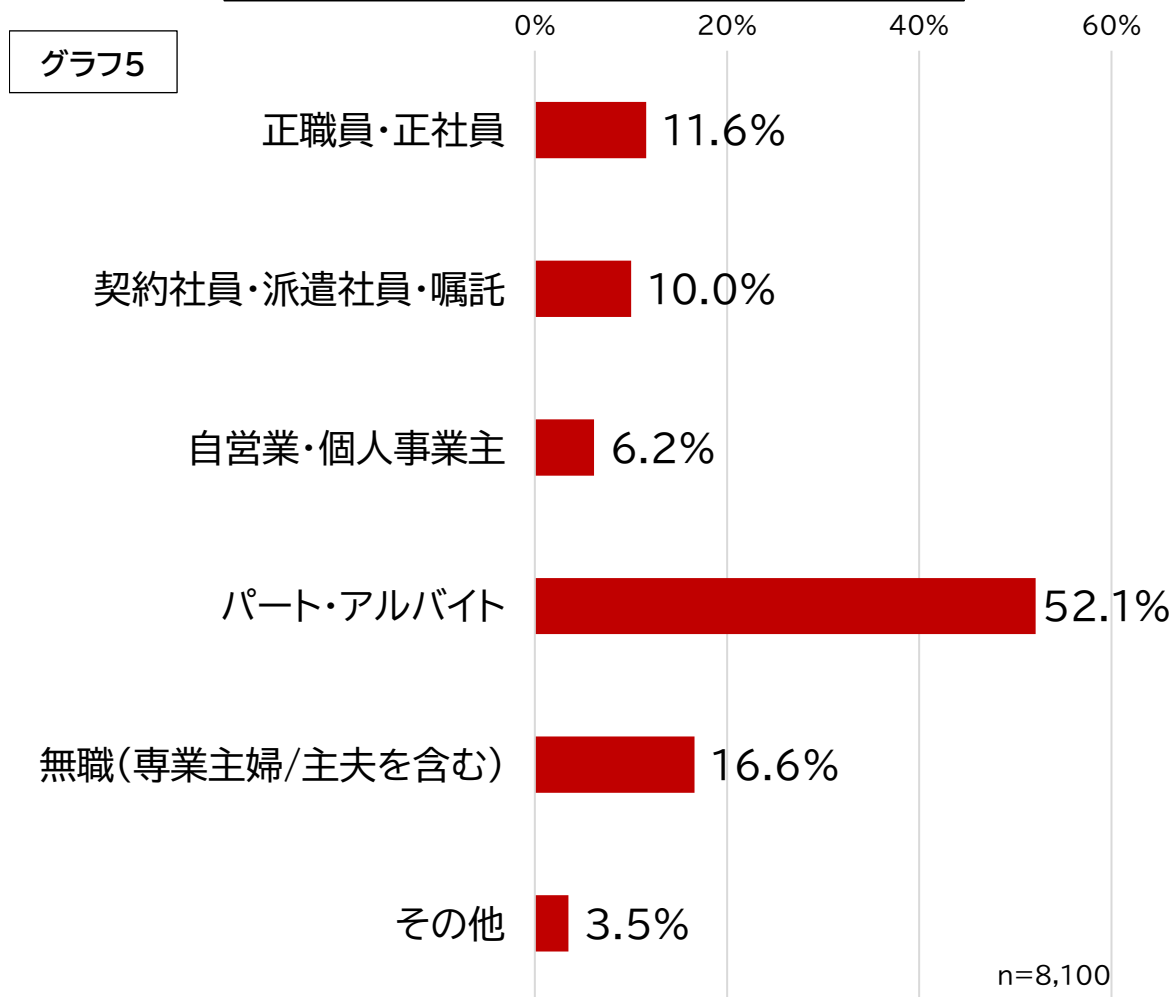
児童扶養手当の利用について

グラフ4

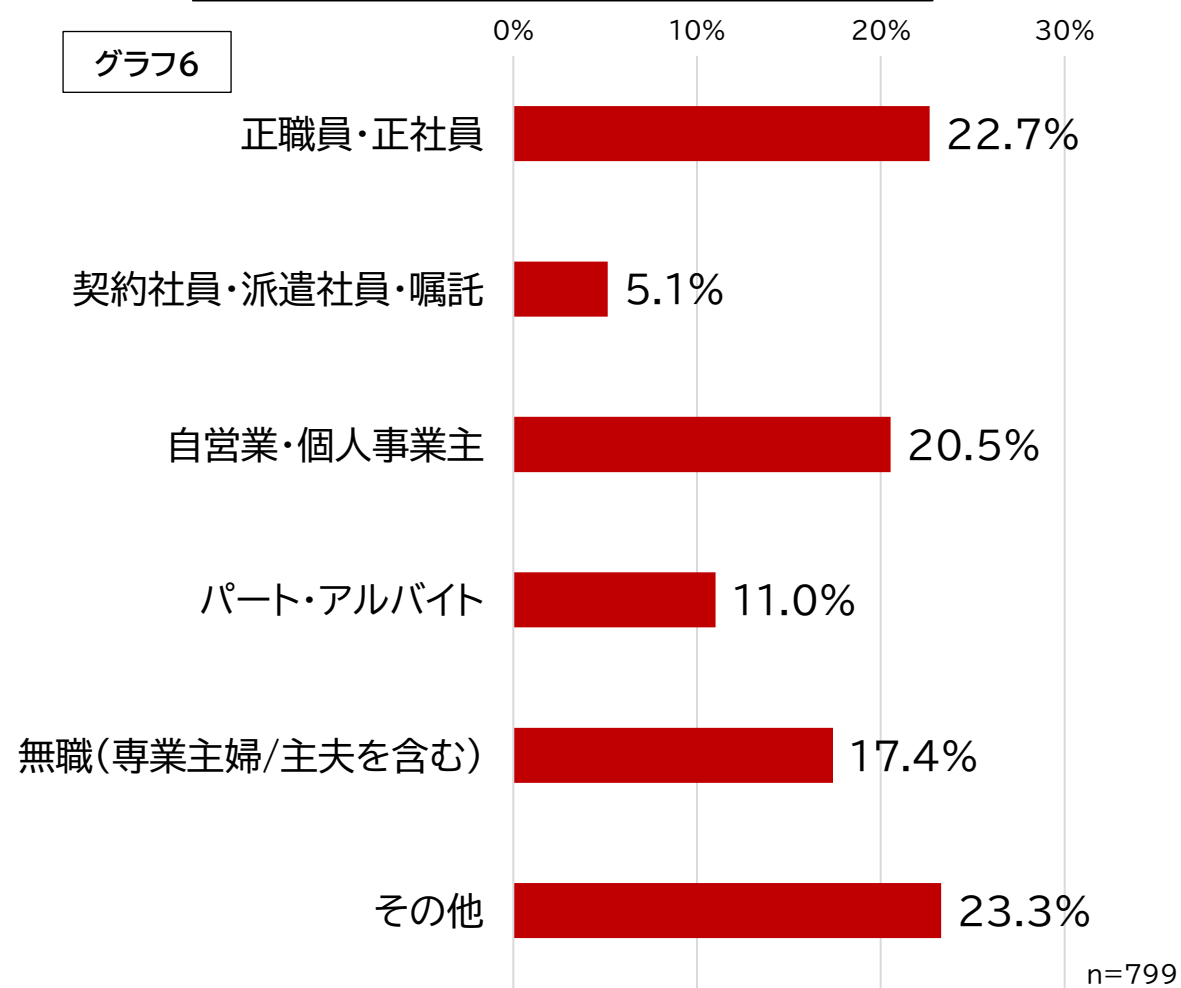


2. 申込世帯の保護者の就業状況(任意、単数回答)

母親(または女性の保護者)の就業状況



父親(または男性の保護者)の就業状況

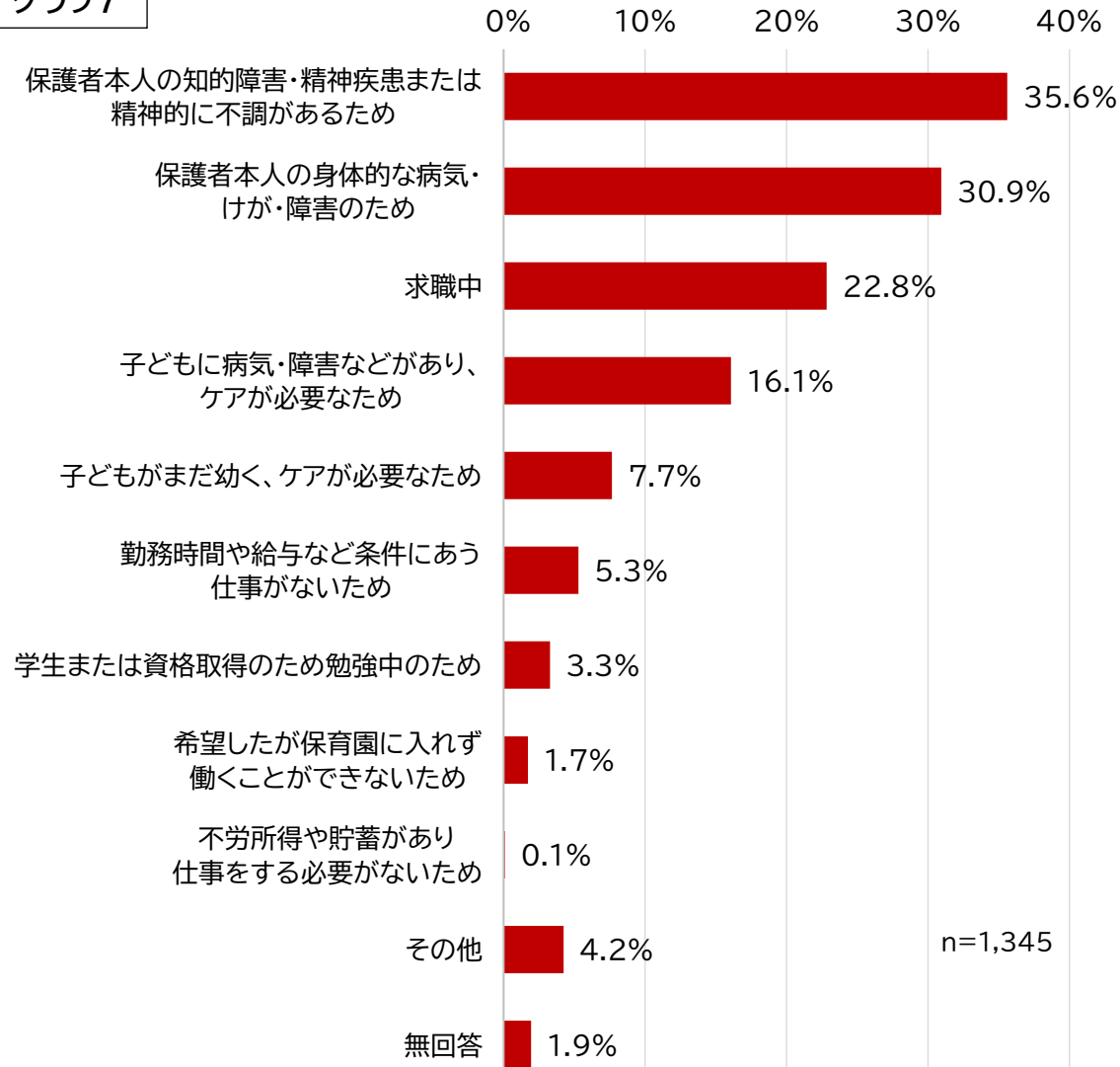


※就業状況は自己申告のため、回答者はひとり親世帯の場合でも、離婚した子の父親または母親、同居の祖父母、その他親族について回答している場合もある。

3. 申込世帯の保護者が無職の理由(任意、複数回答)

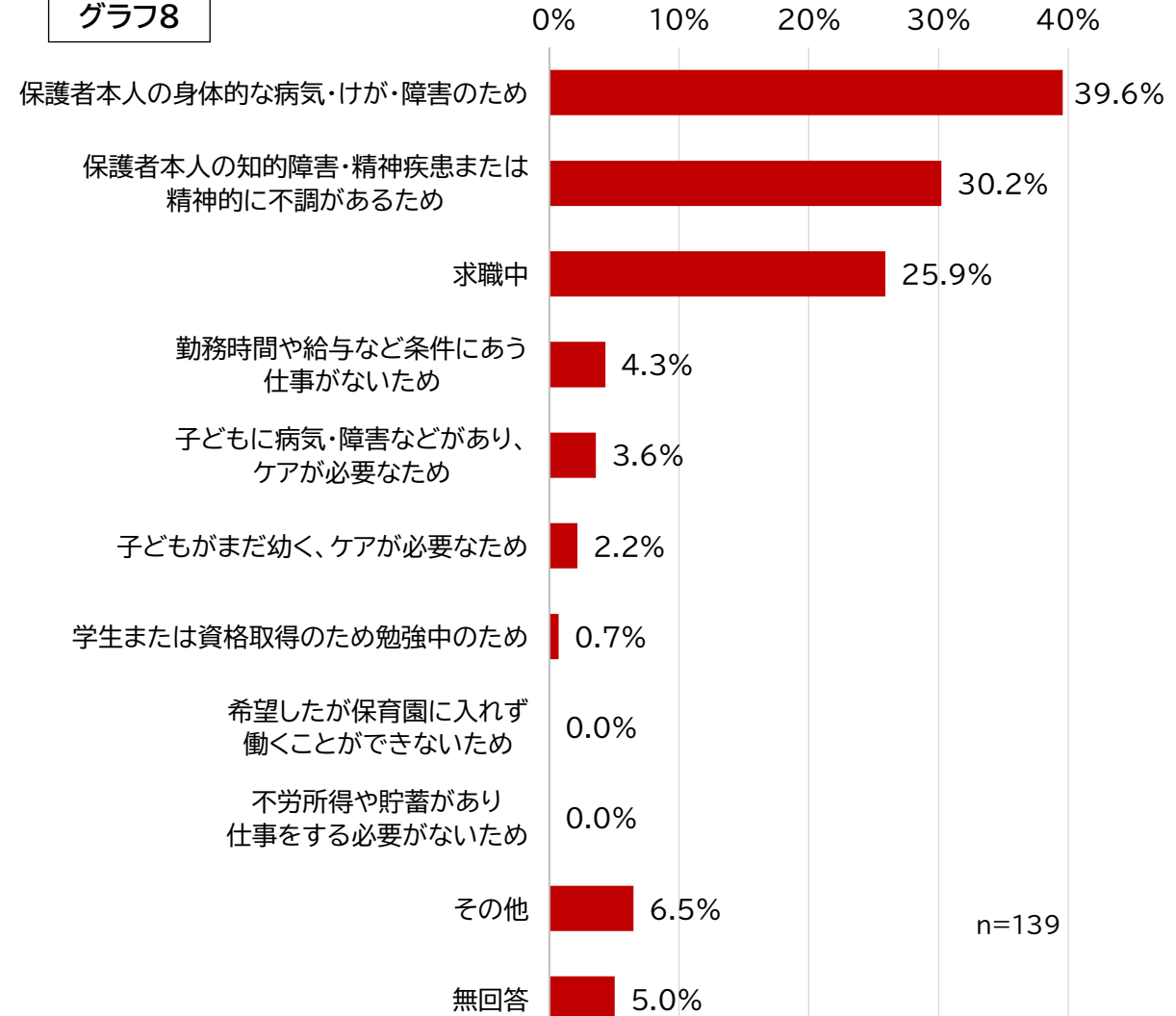
母親(または女性の保護者)の就業状況で「無職」と回答した人の理由

グラフ7



父親(または男性の保護者)の就業状況で「無職」と回答した人の理由

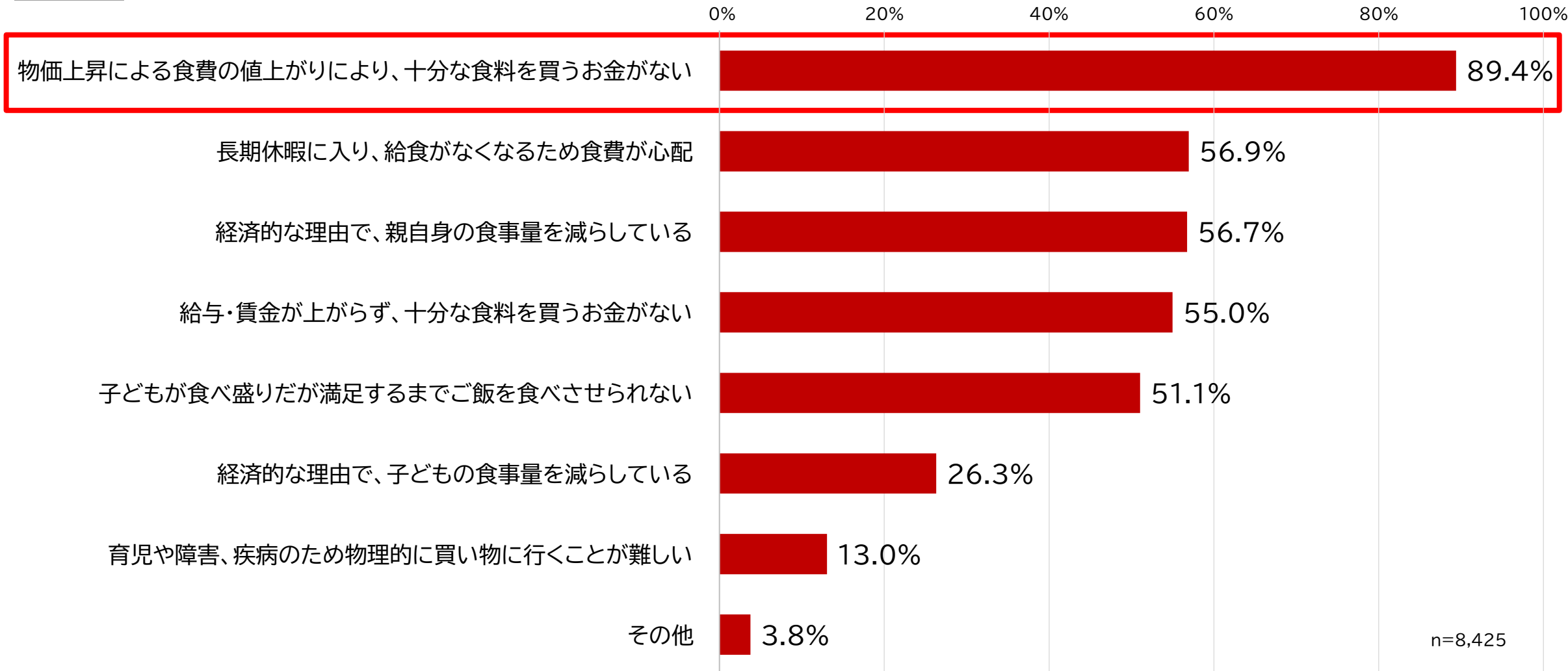
グラフ8



4. 申し込み理由(必須、複数回答)

質問:本ボックスのお申し込みの理由を教えてください。

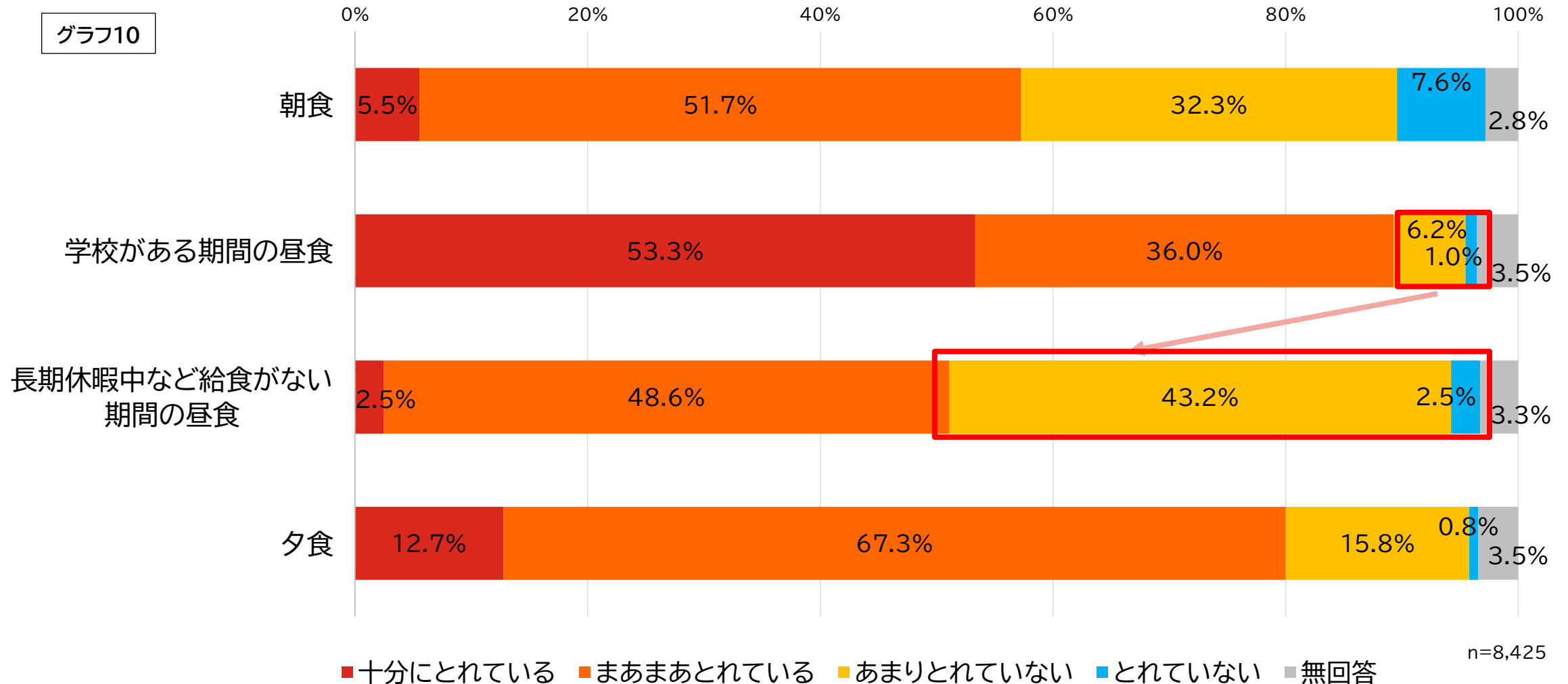
グラフ9



5. 子どもたちの食をとりまく状況(任意、単数回答)

質問:あなたは、子どもが普段十分な量の食事がとれていると思いますか。

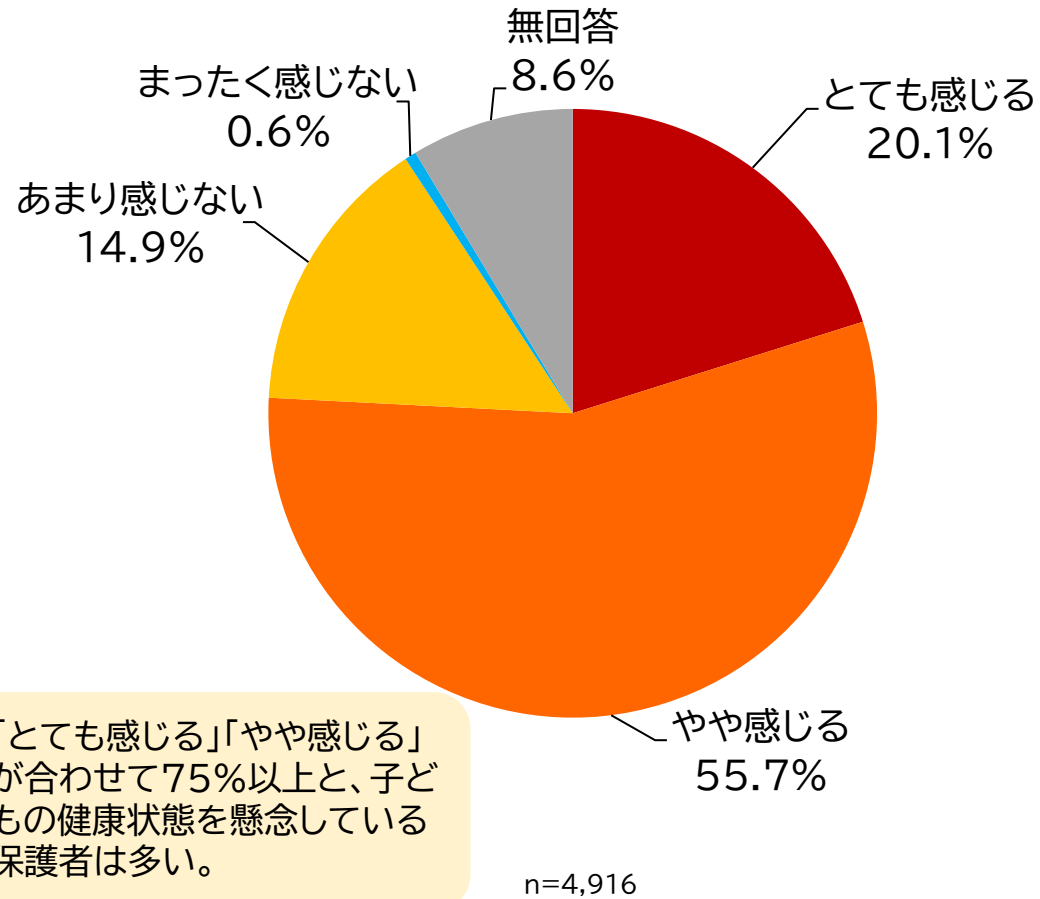
グラフ10



6. 子どもたちの食と健康(任意)

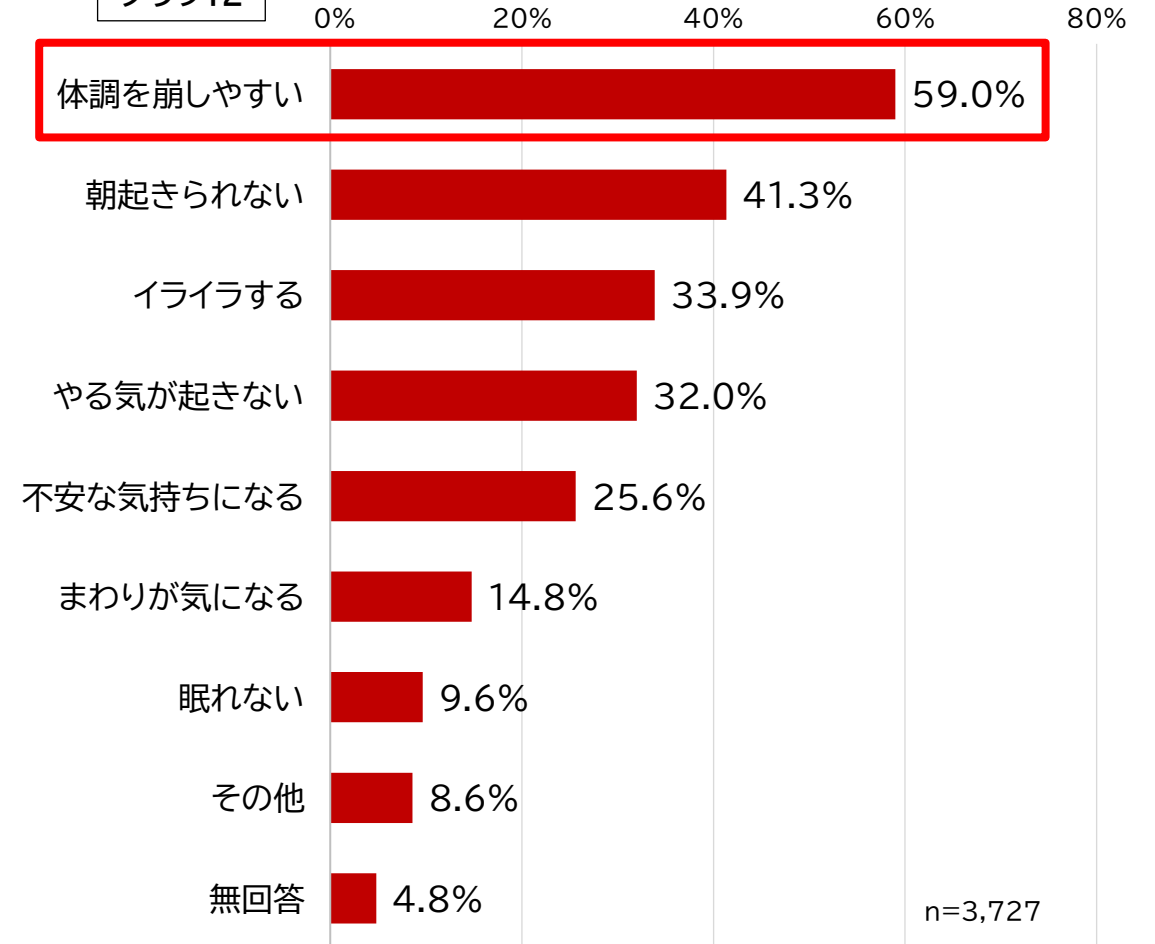
質問:(前ページの質問で1つでも「あまりとれていない」「とれていない」と回答した人のみ)食事が十分にとれていないことで、子どもの健康状態に影響を感じますか。(単数回答)

グラフ11



質問:(左の質問で「とても感じる」「やや感じる」と回答した人のみ)お子さんの健康について、あてはまるものすべてを選んでください。(複数回答)

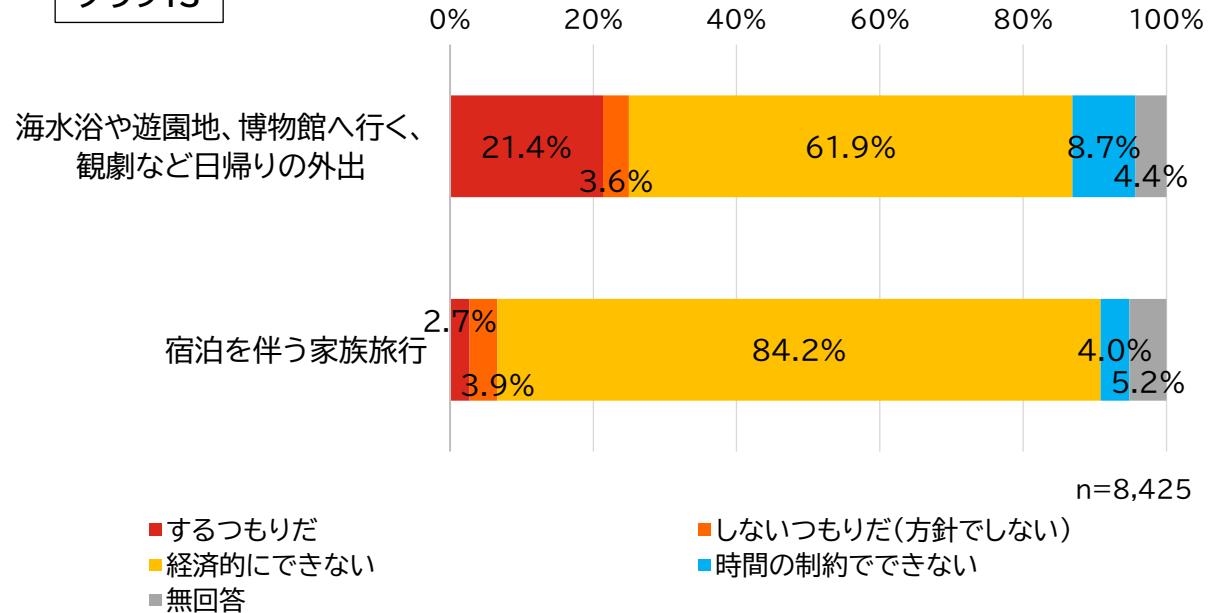
グラフ12



7. 子どもの夏休みの過ごし方(任意、単数回答)

質問:あなたの世帯では、今年の夏休みに以下の活動をするつもりですか。

グラフ13



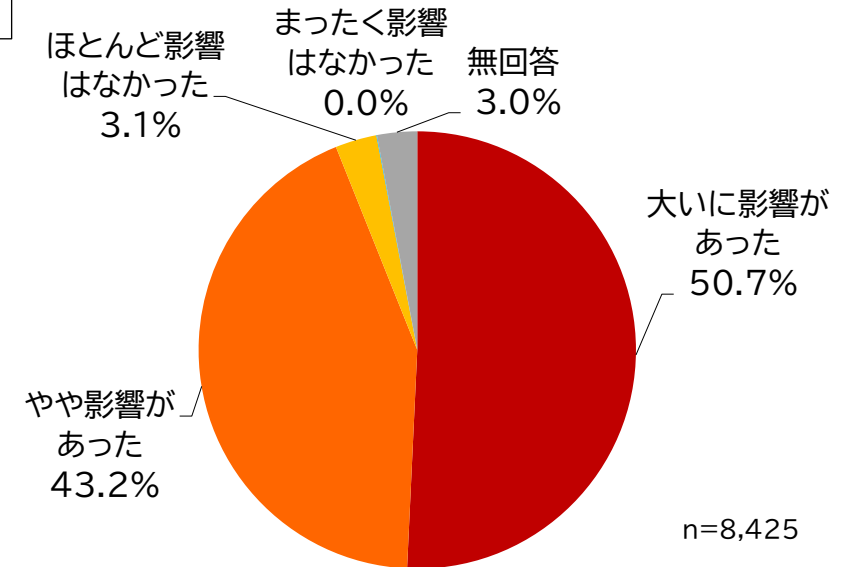
●自由記述より

- ・ 周囲のご家庭との差が不安です。長期休み明けに、学校で子どもに休み中の思い出を書かせたり発表(スピーチ)させることが行われており、いつも困っています。(40代、女性、ひとり親、小学4-6年生1人、東京都)
- ・ 経済的に旅行や体験をさせることができないため、周りの家庭との差が激しく悲しい思いをさせてしまう状況が痛い。また、給食が無いため1日3食を提供する事も難しい。(30代、女性、ひとり親、中学生1人・高校生世代1人、埼玉県)

8. 物価上昇の影響(任意、単数回答)

質問:昨年の今頃と比べて、物価上昇によりお子さんの生活にマイナスの影響はありましたか。

グラフ14



●自由記述より

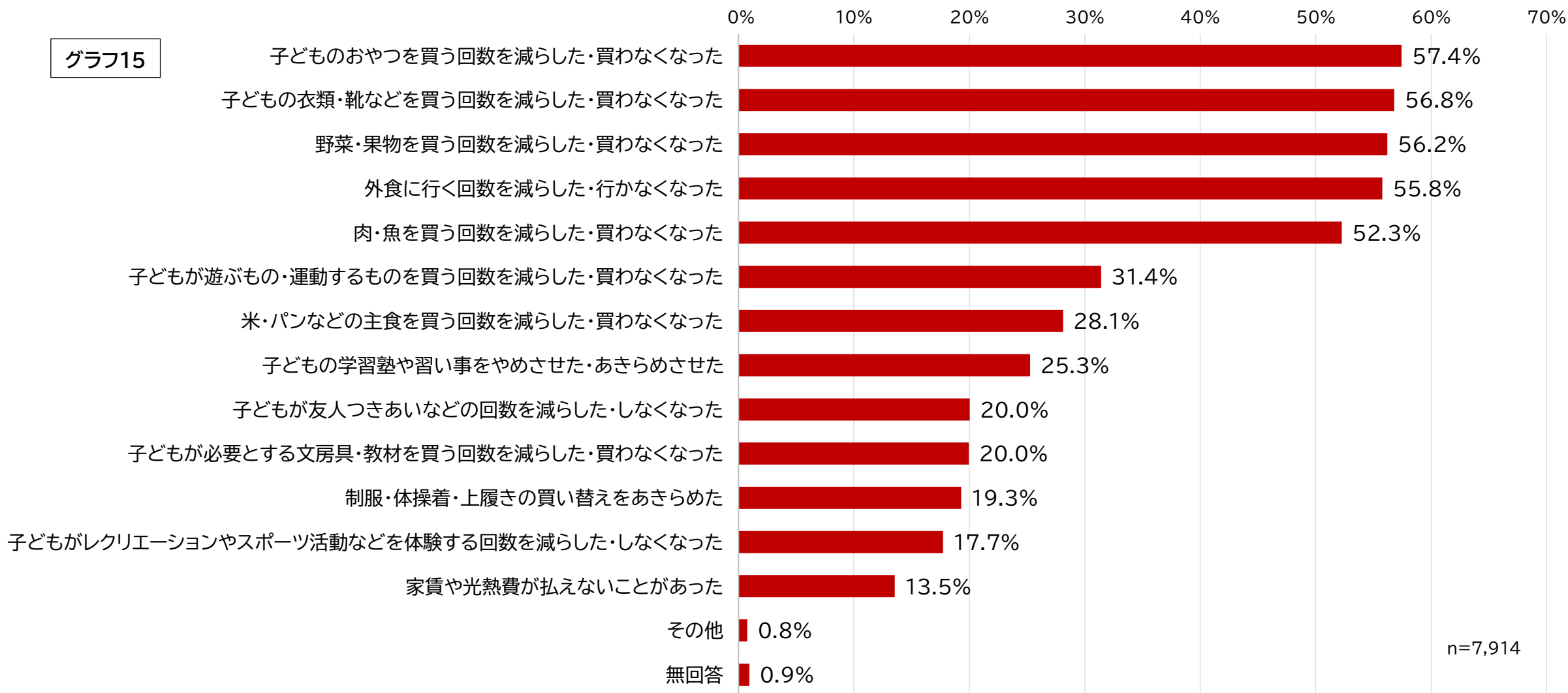
- ・ 物価が高すぎて食事を満足に食べさせてあげることができません。(40代、女性、ひとり親、小学4-6年生1人・中学生1人、静岡県)
- ・ 支援があるとはいえ、物価高では、なかなかまかなえません。食べ盛り男子2人、どう食べさせ、できるだけ、不安をさせないようにするのが精一杯。私の事は、後回しにして、せめて子供たちにはと思ってすごしています。(50代以上、女性、ひとり親、小学4-6年生1人・中学生1人、島根県)
- ・ 物価があがり、スーパー行っても、食パンが高すぎて買うのを躊躇します。子どもにはお腹いっぱい食べさせてあげたい。子ども食堂も近くにないし、困ってます。(40代、女性、ひとり親、高校生世代1人、京都府)

※自由記述は、原文のまま。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。
()内は回答者の年代、性別、世帯状況、養育している子どもの学年、人数、居住地。

9. 物価上昇による子どもへの具体的な影響(任意、複数回答)

質問:(前ページの質問で「大いに影響があった」「やや影響があった」と回答した人のみ)物価上昇によりお子さんの生活にどのような影響がありましたか。

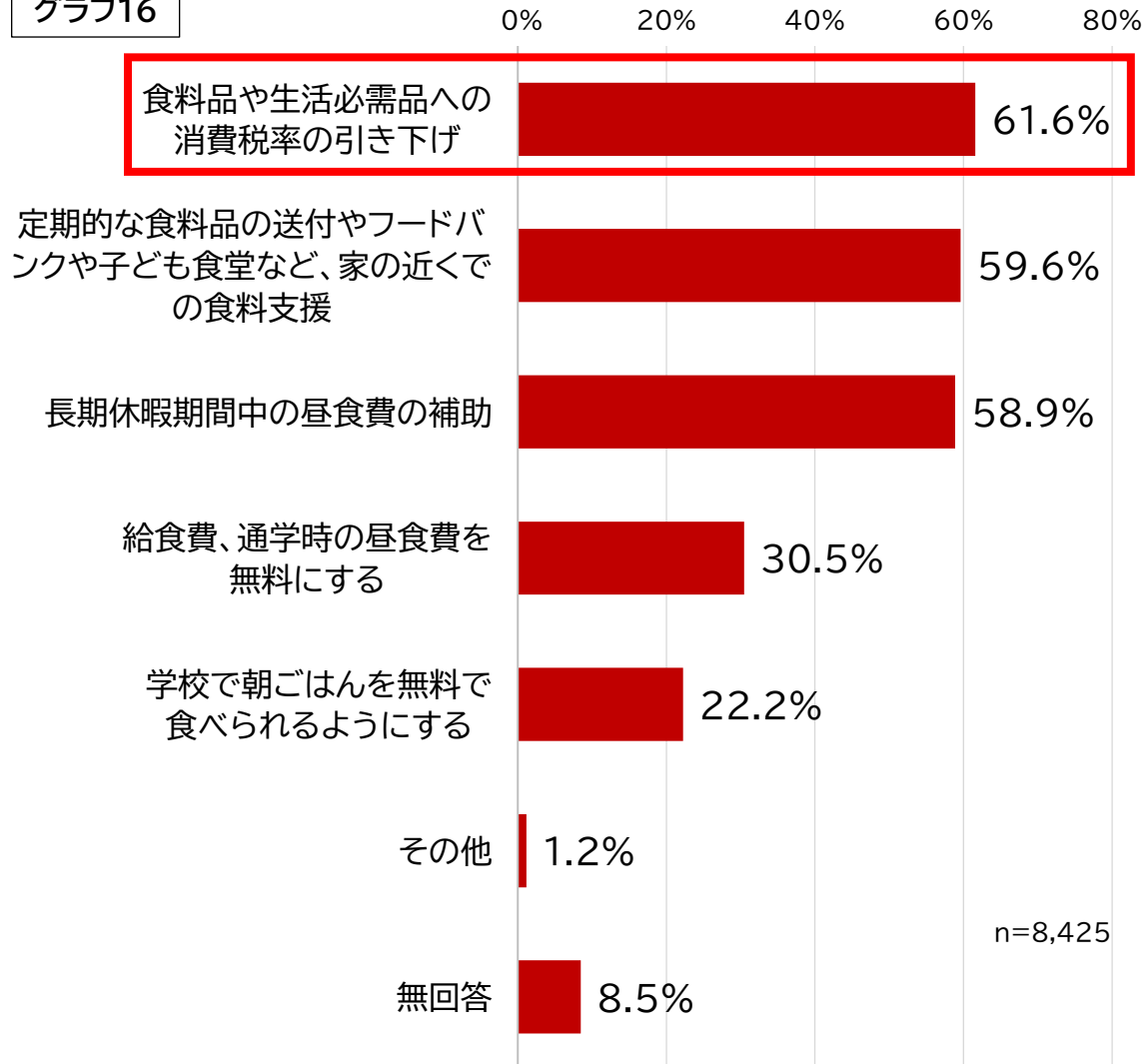
グラフ15



10. 子どもの食について求める支援(任意)

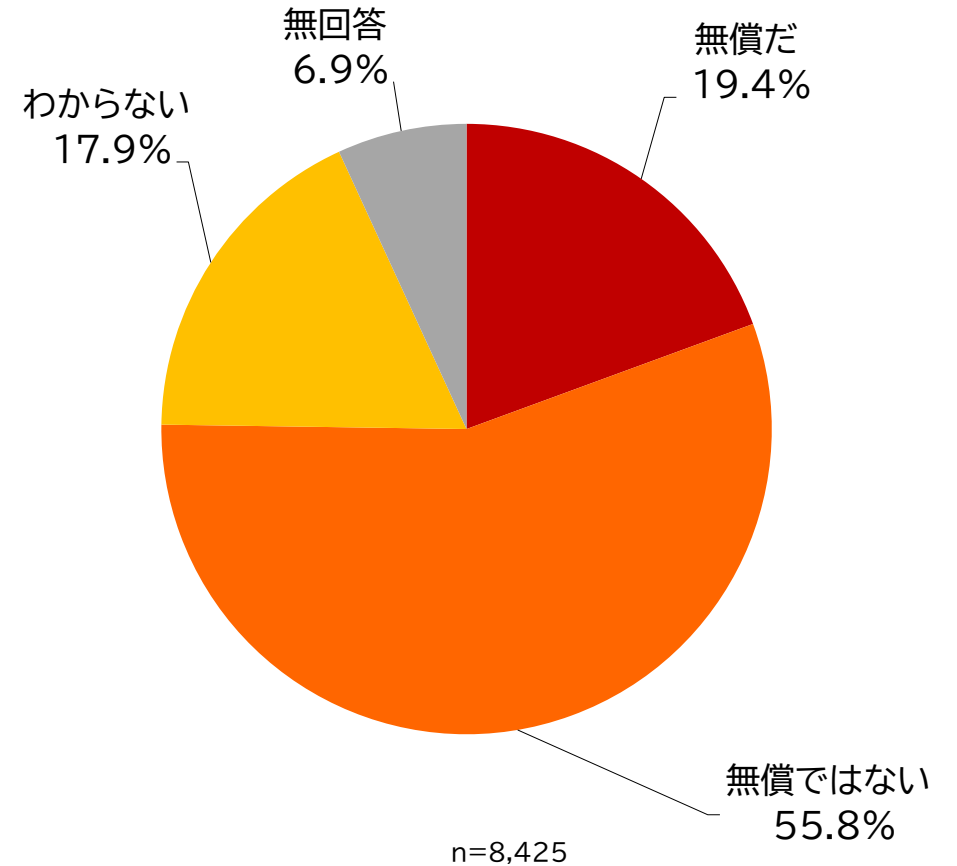
質問:子どもの食について求める支援をすべて選んでください。
(複数回答)

グラフ16



質問:あなたの自治体では給食費がすべての子どもに一律で無償ですか。(単数回答)

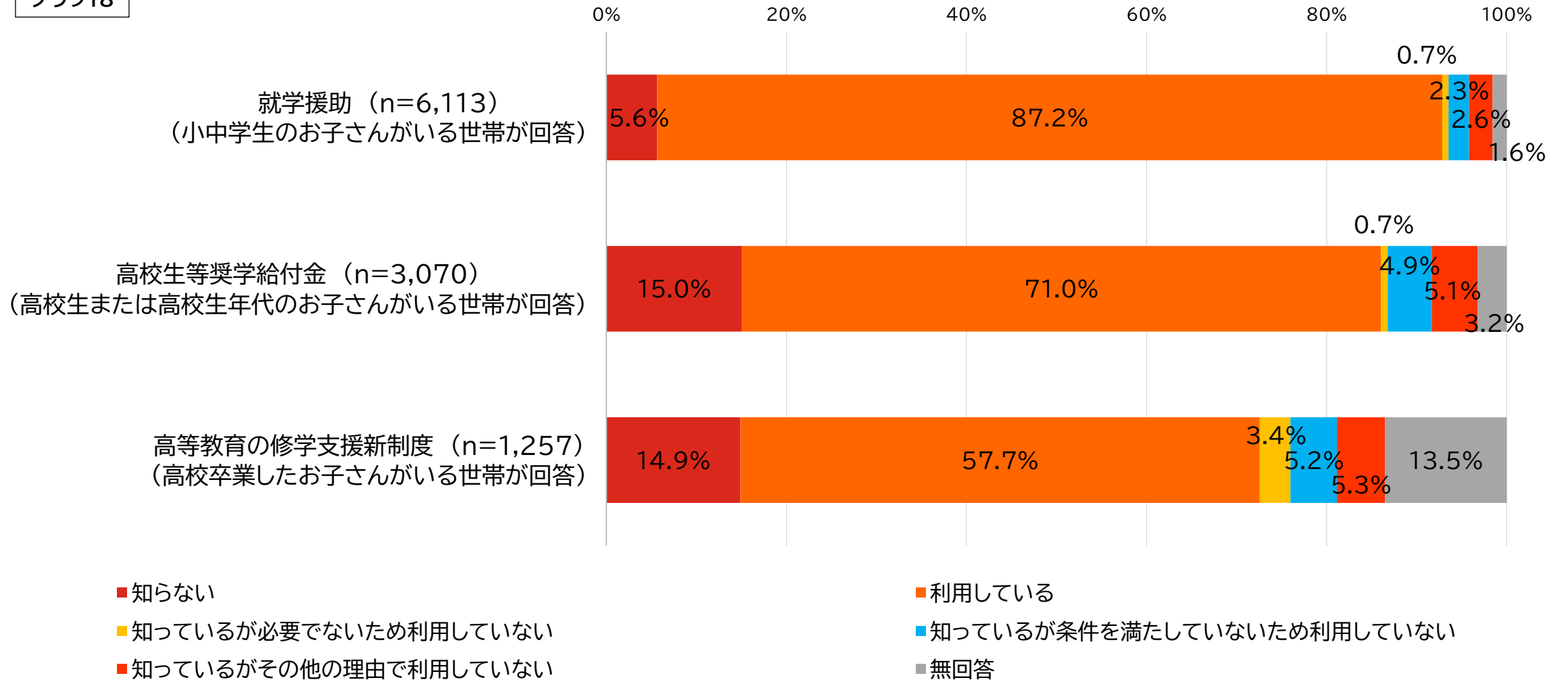
グラフ17



11. 教育に関する公的な支援の利用(任意、単数回答)

質問:以下の公的な支援を利用していますか、知っていますか。

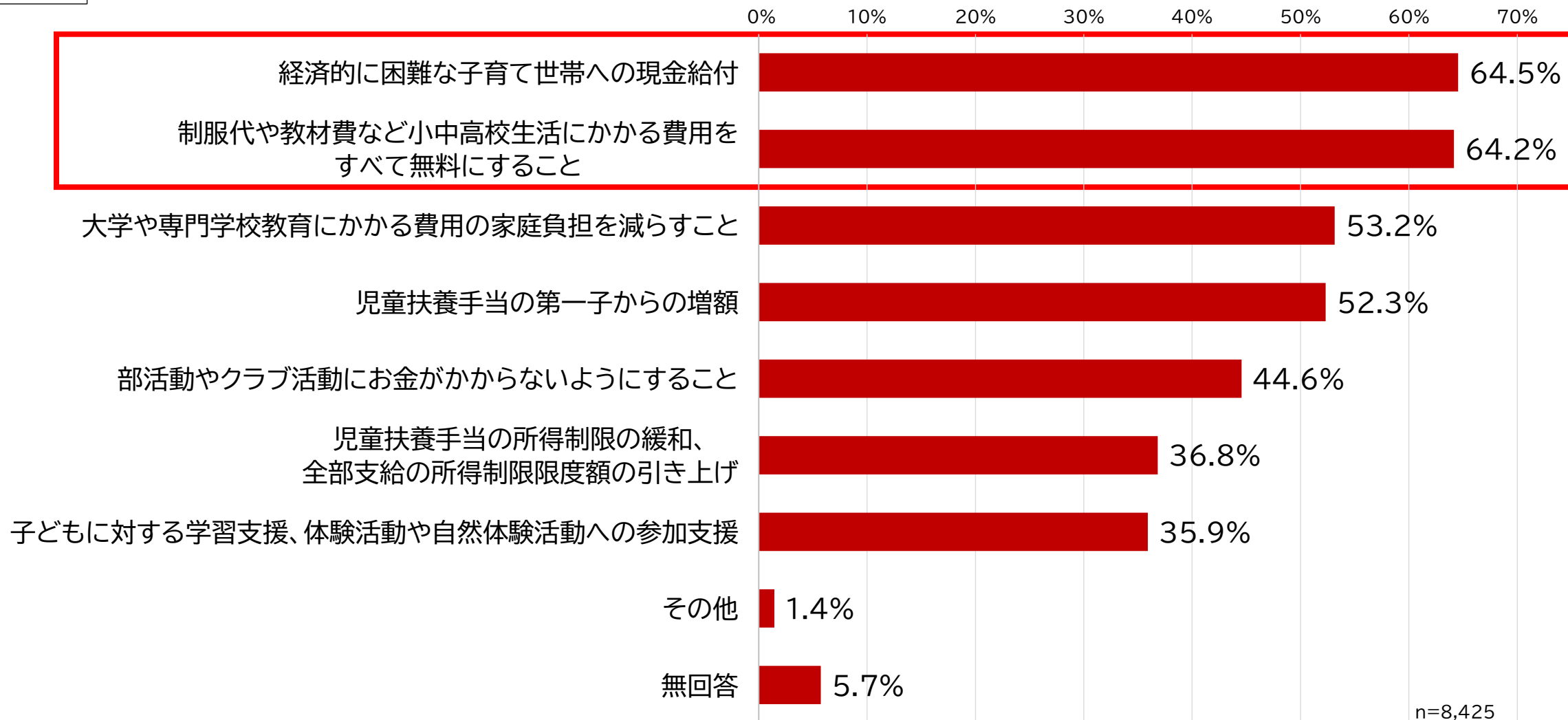
グラフ18



12. 子育てに必要な支援(任意、複数回答)

質問:子育てをしていくうえでどんな支援が必要だと思いますか。

グラフ19



n=8,425

13. 行政に伝えたいこと・望む政策(自由記述抜粋)

※自由記述は、原文のまま。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。()内は回答者の年代、性別、世帯状況、養育している子どもの学年、人数、居住地。

質問:政府は現在、子どもや子育て世帯のための政策を充実させるための議論を進めています。これについて、生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」を保障するために、行政に伝えたいこと・望む政策を具体的に教えてください。

<子どもの権利について>

- ひとり親です。養育費も少なく、児童手当や児童扶養手当を合わせても1ヶ月越すのにギリギリで、やっとです。私は我慢できます。が、子どもたちには色々な行事や体験に参加させたい。親の経済状況で子どもの権利が不公平になってはならないと思います。子どもたちは国に守られて、地域みんなで育て守っていくべきです。国民全て最低限の生活を守る権利があるように、子どもの生きる権利をどの子でも平等に持てる世の中にして下さい！(40代、女性、ひとり親、3歳-就学前1人・小学1-3年生1人・小学4-6年生1人、山口県)
- 子どもの権利とは言うが、実際は大人が勝手に決めてルールに縛られている部分が多い。実際に困っている世帯に積極的に意見を聞くなどして進めてほしい。(40代、女性、ひとり親、高校生世代、愛知県)

<給付金、各種手当について>

- 物価高騰の為、食品などを中々我慢する機会が増えてきているので、定期的な食料提供や給付金が、現金じゃなくても良いので、食品しか買えない商品券とかにしてもらえたら有難いです。(40代、男性、ふたり親、高校生世代1人、大阪府)
- 子どもにかかる食費は物価高騰により、かなり厳しい状態です。特に食べ盛りの子の食べる量をご存知ですかと言いたい。小学生の時と中学生では、かかる食費も違うので、給付金も額を考えてほしい。(50代以上、女性、ひとり親、高校生世代1人、奈良県)
- いろいろ対策をしてくれてるし、とてもありがたいのですが、一度きりの給付金だけでは…やはり物価高騰している現在では、その時だけで、正直厳しいです。(40代、女性、ひとり親、中学生1人・高校生世代1人、徳島県)

<教育にかかる費用について>

- 所得よっての教育格差があってはいけません。子どもが豊かに安全に成長していけるように、様々な観点から議論をし満足できる政策をつくってほしい。高校の授業料無償化とはいえ、私立高校は授業料以外に諸々とお金がかかる。学校の授業だけでなく多感な時期に必要な学びにかかる費用を行政が負担できるようにしてほしい。(40代、女性、ひとり親、高校生世代1人、東京都)
- 今年公立中学の制服代(冬と夏の必要最低枚数)だけで約10万円の出費でした(就学支援金は66,000円)。市では今年から新制服になった為、従来のお下がりを着る1年生はひとりも居ない状況です。せめて義務教育期間だけでも学校に通うための必要最低限のものが揃えられるよう行政から一律支給して頂きたい。「子育て支援策」という名ばかりではなく、確実にこどもの元へ届くようにして欲しいです。(40代、女性、ひとり親、小学4-6年生1人・中学生1人、福岡県)
- 給食費まで物価高の影響を受けて今年度から値上げされ、学年費なども6年生になると5,000円が毎月かかってくる。子ども1人に対して学校からの請求が毎月1万円もかかってくる、3人子どもがいるが、25,000円程必要になる。義務教育の世界で、何故ここまでの費用が必要になるのか、疑問である。(40代、男性、ひとり親、小学1-3年生1人・小学4-6年生1人、滋賀県)

<体験の機会について>

- 子どもの遊べる環境や、周りの手助けが受けられていないと実感しています。私の家のように、習い事もできない子もたくさんいると思います。教育の無償化や、習い事の支援、孤立しない子育て環境を望みます。(30代、女性、ひとり親、小学4-6年生1人、千葉県)
- 経済的理由でやりたい習い事を我慢したり、参加したい体験学習に参加できなかったり、子どもの成長にとって欠かせないことを無償でできる制度が欲しい。(30代、女性、ひとり親、小学1-3年生1人、静岡県)

14. その他の自由記述

※自由記述は、原文のまま。ただし、明らかな誤字・脱字は修正したり、個人情報保護の観点などから原文から一部を抜粋して文意が変わらない範囲で編集している場合がある。()内は回答者の年代、性別、世帯状況、養育している子どもの学年、人数、居住地。

<長期休暇中の食事について>

- 男の子3人、学校や幼稚園が休みなので、昼食分が増えると経済的に心配です。特に8月は手当の支給月(児童手当も児童扶養手当も)ではないので、絶望的になります。(40代、女性、ひとり親、3歳-就学前1人・小学1-3年生1人・小学4-6年生1人、山口県)
- 高校生でスポーツをしているため、休み中は練習時間が長く、毎日お弁当と補食が必要になるのですが、経済的にギリギリで生活している為、おかず無しのおにぎりしか持たせてあげられない。普段も栄養補給出来る物を持たせて下さいと先生から言われているのですが、それも出来ず。部活がたまに休みの時、お友達と出かけたけれど我慢するの繰り返しで、申し訳ない気持ちでいっぱいです。せめて、ご飯だけでも、お腹いっぱい食べさせてあげたいです。(40代、女性、ひとり親、高校生世代1人、山形県)
- やはり給食が無くなるのが1番の悩みです。小学生の娘は食べ盛りなので必ずおかわりします。夏休みがあることによって食費が1.5倍ぐらいになると予想しています。また家にいることが増える=電気代も余計にかかるので食費、光熱費の事を考えると気が滅入ります。(30代、女性、ひとり親、0-2歳1人・小学1-3年生1人、東京都)
- (お金無いから)今日は昼ご飯食べなくて大丈夫だよ、ご飯食べずに仕事終わるの待ってるね、夕飯食べずに早く寝よう、朝ご飯食べないよう遅く起きれば良いなど休みの日は言われるから切ない…。(40代、女性、ひとり親、小学4-6年生2人、福島県)

<食支援や子ども食堂について>

- 過去に子ども食堂を利用していたが仕事の時間と合わず使用する事ができなくなった。(40代、女性、ひとり親、小学1-3年生1人・高校生世代1人、神奈川県)
- 息子がまわりの友達にばれたくないという理由から行けそうな場所にあったとしても利用できそうにないです。(30代、女性、ひとり親、中学生1人・高校生世代1人、大阪府)
- こども食堂に電話をかけるも何回か締め切りましたと断られて以降、利用しなくなりました。(50代以上、女性、ひとり親、小学4-6年生2人、高知県)

<夏休みの過ごし方について>

- 色々な体験をさせてあげたいが、欠勤すると給料は減り、働くとももさせてあげられず、どちらにせよ何もさせてあげられないのが気がかりで、申し訳ないなと思っています。(30代、女性、ひとり親、3歳-就学前1人・小学1-3年生1人・小学4-6年生1人、熊本県)
- 夏休みに思い出になるような旅行などに連れていきたいが経済的に厳しく行けません。夏休み明けに友達は旅行に行ったりの話題が多い中、うちの子もはどこもいけず惨めな気持ちにならないか心配です。(50代以上、女性、ひとり親、高校生世代2人、東京都)
- 「クラスメイトの子は遊園地や海外に行くのに、私は行けないし、お友達と話が出来ない…」と娘本人が言っている。(30代、女性、ひとり親、小学4-6年生1人、神奈川県)
- 遊びにいく余裕がなく、エアコンがつけられず体調が悪くなり、食べれるものがない。(50代以上、女性、ひとり親、小学4-6年生1人・高校生世代2人、愛知県)

<その他>

- 息子は夏休み中、勉強とクラブ活動頑張るつもりです。光熱費が高くなるので、クーラーを使用したりシャワーに入ったりを極力減らさないといけないこと、夏休み中は息子がクラブ活動にも行くのでお弁当も毎日持たせないといけないし、食費もかかるので不安しかありません。(40代、女性、ひとり親、高校生世代1人、大阪府)
- 大学受験を迎える子どもが、家で勉強する際に電気代を気にして冷房を使わずにいる。(50代以上、女性、ひとり親、高校生世代2人、岡山県)
- ずっと在宅することでエアコンなど使用が増えて光熱費が心配。夏休みなのでどこかに連れて行ってあげたい気持ちはあるが経済的な理由でままならない。まわりの子ども達は夏休みは塾の夏期講習などで勉強が進められるが、経済的にも無理なのでますます取り残される不安。(50代以上、女性、ひとり親、中学生1人、愛知県)

【調査結果を受けて】

本調査では、物価上昇の影響で十分な食料を買うお金がないと回答した世帯が9割近くにのぼった。これから迎える夏休みを前に、「三食用意してあげられない」「肉や野菜が高くて買えず、炭水化物ばかりで栄養バランスが心配」など、回答者からは不安の声が多くあがっている。また、普段の食事が十分にとれていない世帯で子どもの健康への影響を感じる割合が高く、体調を崩しやすいなど具体的な子どもの心身への影響が明らかとなった。給食のない長期休暇中に、十分な量の昼食をとることができない子どもの割合が大幅に増えると予想される。そのため、この夏休みの子どもの健康状態がさらに悪化することが懸念される。

物価上昇以外にも、給与や賃金が上がらないといった社会全体の長引く不安定な経済状況を背景に、申込者は食料品や生活必需品への消費税率の引き下げを求めている。また、子育てに必要な支援について、経済的に困難な子育て世帯への現金給付や教育の無償化を求める声が多く、子育て費用の軽減なしでは、こうした世帯で子どもの食を十分にまかなうことは困難であろう。

2024年6月、子どもの貧困対策法が改正された。法律名は「子どもの貧困対策推進法」から「こどもの貧困の解消に向けた対策推進法」に改められ、貧困による子どもの権利侵害をなくすことが明記された。今後、改正法に基づき、国が子どもの貧困の「解消」に向けて、さらなる経済的支援・生活支援など子どもの貧困対策を拡充することが求められる。

【セーブ・ザ・チルドレンの今後の直接支援活動】

「子どもの食 応援ボックス」は、夏休み分については7月中旬以降、冬休み分については12月中旬以降に対象者に順次発送し、発送後には利用世帯に対してインタビューを実施予定である。本調査結果やインタビューは、セーブ・ザ・チルドレンのウェブサイトやSNSで公開するほか、政策提言にも活用する。